



七月の園藝

大岩金

鬱陶しいとはいひながらも晴間をみては蟲退治、挿木、植替、除草など前月半ばからこの初旬まではなかなか多忙でありましたがその梅雨も晴れますれば後はすつかり夏の氣分になつてしまひます。

先づ觀賞の方面から申しますれば朝に開く朝顔を始め晝間のるこうさう、まつばぼたん、睡蓮、夕方の月見草、夕顔、おしろい花など、又日を遂つ

てまはるひまはり、その外丸い葉に銀滴をとどめる金蓮花、或はさんぎよさう、むぎわらぎく、シヤスターデージー、えぞぎく、くじやくさう、萬壽菊、昇り藤、ランタナ、ダーリヤ、緑こい茂の下の山百合、谷間の姫百合、車百合など見るからに氣高く感ぜられるものやさしく愛らしいもの、又早咲のさきやうなども皆本月が見頃であります。

實生にしたアスバラガスも大分芽が伸びました。箱播のものは小鉢にとつて觀賞かたはらこの上の生育を計りませう。夏の眺は花物以上に葉物や水草の方が冷味を覺えてゆかしいものであります。葉物としてはこの外におりづるらん、匍枝の長く垂れた状、裏葉の色變りしたかもめらん、すつと伸びて先に葉を群がらせたシペラス、色様々のペゴニア、盆養の絹糸草など種々あります。

繁殖

秋の花壇を賑はす爲のコリウス、アルタナンセラは地に下して充分に株がはり枝が茂つて參りましたならばその芽をつんで挿木します。その外ペゴニアの葉挿、ゼラニウム露地挿などとしてよいのであります。

又縁取用の白丁花も伸びるにつれて刈り取つてはその先をあまり強い日の照らない所に挿しておきます。

草莓は繁殖させ又は更新の必要がありませんならばこの切親臺に近い方から第二節か第三節位までの匍匐枝をとり一節づゝに切りはなして秋まで苗床に植えておきます。

その他の管理

花卉にありましては、ダリヤの側芽つみ、花の間引ボン／＼咲などの小花をつけるものには必要ありませんがペオニー、デコラティブ、カクタス咲等の大輪物にありましては一花軸に三固も着花のまゝにしておきましてはその中の一又は二花は花梗も短かく花も小さくなりますから最も美しいもの一固を残して摘花するのであります。かくして中旬頃までに一きり咲かせましたならば下旬になりまして少々位花が咲いておりまして一度下から數節を置いて軸を切り取り來る秋の準備をするのであります。

サルビヤ、コスモス等にありましては前月に引

續き今尙數回四五節伸びた側芽は二芽位づつちいて摘心し花壇や鉢作りなどにちきましてはあまり丈をのびさないで株をはらせた方が支柱の心配がなくてよいと思ひます。

春咲の球根類で掘りあげてないものは掘りあげなければなりません。

又外にありました雪割草や福壽草は今月から十月始め頃まではあまり日光の強くない半日蔭の所にまはしてやります。

その他は灌水に怠りのないやう、朝顔や菊にはわけて暑い中にも一週一回位づゝは施肥をしてほしいものです。まだくゝ畑には色々してほしい仕事があります。暑さの折からあまりくどく申さない事に致しませう。

收穫

暑い中にも收穫と申せば楽しみがそつて參ります。わけても赤々と房をなし水氣たつぶりのト

マトを想像しては夕方もまたれないで先づこの暑い間にと足がむいて參ります。

その序にはしその少し、二十日大根などもとつて來る氣になります。

その外つるな、ふだんさう、ビートなども收穫時になりました。

草花類にありましては色々の種子をとらなければなりません。夫々適期がありますが曾て申して居りますからこゝに省略しまして只適期を失しない事を御注意申してちきます。

木物の種子としてえにしだの實が黒くなりました。是は草花類の如く播種して翌年すぐには開花する迄にはゆきませんが早いのは三年目位になりますと餘程大きくなり花も着くやうになります。自分で實生から育てた木物の次第ゝゝに大きくなりますのは草花の培養より以上に楽しみな所があります。